令和６年６月５日

令和５年度　特別の教育課程の実施状況等について

学　校　名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
鹿嶋市立波野小学校	http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899
鹿嶋市立豊郷小学校	http://www2.sopia.or.jp/toyosato/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81
鹿嶋市立豊津小学校	http://www2.sopia.or.jp/toyotu/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%ef%bd%a5%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%ef%bc%97%ef%bc%8e%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92
鹿嶋市立平井小学校	http://www2.sopia.or.jp/hiraies/wp/09englishachtivity
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp/?page_id=24990
鹿嶋市立鉢形小学校	http://www2.sopia.or.jp/hachikko/%e5%ad%a6%e6%a0%a1%e7%b4%b9%e4%bb%8b/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81
鹿嶋市立大同東小学校	http://www2.sopia.or.jp/daido/wp/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81%e7%ad%89%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6
鹿嶋市立大同西小学校	http://www2.sopia.or.jp/daidouw/wp/?page_id=14165
鹿嶋市立中野東小学校	http://www.kashima.ed.jp/~nakahiga-el/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81

鹿嶋市立中野西小学校	http://www.kashima.ed.jp/~nakanowel/%e2%98%8501%e3%80%80%e5%ad%a6%e6%a0%a1%e7%b4%b9%e4%bb%8b/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e7%b7%a8%e6%88%90%e3%81%ae%e6%96%b9%e9%87%9d%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
鹿嶋市立波野小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立豊郷小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立豊津小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立鹿島小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立平井小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立三笠小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立鉢形小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立大同東小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立大同西小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立中野東小学校	上記のとおり	上記のとおり
鹿嶋市立中野西小学校	上記のとおり	上記のとおり

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

（○）・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

なし

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

（○）・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

なし

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成することを目標として実施されており、鹿嶋市内 10 小学校第１・２学年において年間 20 時間の外国語活動を実施している。年度末に小学校第１・２学年を対象にアンケート調査を実施した。結果は、外国語活動の時間は楽しい 83.0%、ALT と話す活動は楽しい 80.1%、外国語を話せるようになりたい 83.4%、外国のことをもっと知りたい 88.3%となった。この結果から、外国語に興味をもち意欲的に外国語活動に取り組んでいることが分かった。

中学年、高学年の児童は、市主催の英会話教室へ意欲的に参加しており、さらに高学年の児童はこの英会話教室で学んだことを活用する場として、東京グローバルゲートウェイ（体験型英語教育施設）で行われているプログラムに参加し、積極的に外国人と英語でコミュニケーションをとることができた。これらのことから、早期から外国語活動を実施したことで、多くの児童が英語に興味をもち、校外での活動にも積極的に参加するなど、グローバル社会に必要な英語力を獲得するための姿勢が身に付いていると考えられる。

さらに、本市の中学校の生徒の英語力は、文科省の目標である「中学校３年生卒業時の英語力が CEFR A1 レベル（英検３級など）以上の生徒が 50%以上」という目標を達成し、令和５年度においては、CEFR A1 レベル（英検３級など）以上の生徒がおよそ 60%であった。県事業である英語プレゼンテーションフォーラムでは、鹿嶋市内から３校が県大会への出場を果たした。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を生かし小学校第１学年から第６学年までの６年間、外国語の授業に取り組んだことで、小学校第６学年を対象とした外部調査「GTEC Junior 2（4技能）」において、「聞く力」では市平均スコアが95.1、「書く力」では市平均スコアが96.0で、Juniorグレードが「４」となり、なじみのある英語を使えるようになるレベルに達していることが分かった。一方、今年度は、「話す力」では市平均スコアが87.5、「読む力」では市平均スコア87.4で、Juniorグレードが「３」であった。また、「話す力」のスコアは、他の項目に比べ学校差が大きい傾向があった。スコアの高い学校の指導事例を共有するような研修を行い、授業力向上に取り組み、所属校による学力差が生じないようにする必要がある。

授業づくりにおいては、学習到達目標であるCan-Doリストを指導者と児童生徒で共有し、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確する必要がある。年間指導計画を見直し、単元、学年ごとに資質・能力につながりをもたせることも大切である。

言語活動を行う際には、思考力、判断力、表現力の育成を目指し、コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確にして、児童がインプットしたことを活用させる

場を設けること、繰り返し使わせる場の設定を工夫することも大切である。また、指導したことを明確に評価できるようにする指導と評価の一体化を図ることも課題である。

５．課題の改善のための取組の方向性

４に示すような課題を踏まえて、引き続き系統的な英語教育の推進に努める。

はじめに、小学校第１・２学年における授業づくりにおいて、市のシラバス、レッスンプラン、および教材の見直しを行い、授業実践したことを共有する研修を年間２回実施する。その中で、今年度の課題となった「話す力」「読む力」の向上を目指し、児童の実態と発達段階に合わせた言語活動を工夫改善する。年間 20 時間という限られた時間の中で、児童が楽しく外国語に慣れ親しめるようにしたい。

次に、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にするために、学習到達目標であるCan-Do リスト及び年間指導計画を見直し、指導者と児童で共有する。指導内容や指導方法の系統性を中学校区の小学校間で統一することで児童の英語力に差が出ないようにする。

中学校の指導者が小学校での指導内容や指導方法を十分に理解し授業実践できるようにするために、中学校区で小小連携、小中連携の推進を進める。小中連携の取組の一つとして、中学校１学年の年度始めの授業において、小学校での学びを生かす授業を実施する。これは昨年度から継続した取組で、児童は既習の表現を生かすことができたり、中学校の授業への不安を軽減したりすることができる。教師は、「英語による言語活動」を中心とした授業展開を１学期のスタートから意識したり、小学校での学びを意識して確認する機会を設けたりすることができる。

最後に、児童生徒の発達段階に応じた思考力、判断力、表現力の育成を目指し、コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確に設定した言語活動を行うこと、児童がインプットしたことを繰り返し使わせることで言語材料の定着を図りたい。また、指導と評価の一体化を図り、常に授業改善に取り組む。そのためには、児童生徒の英語力を確かめるパフォーマンステストを実施したり、アセスメントテストや外部試験等の結果から授業改善に取り組んだりする。日ごろから、指導者は、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、RPDCA サイクルでの授業づくりを継続していく。

英語教育を推進するために、次年度も各校と教育委員会の両輪で学びづくりをしていく。